



## 11月定例会・会派代表質問の内容は(11/25)

他会派の質問に答え来年4月の市長選立候補を正式表明した市長。持続可能な掛川市を見据えて取り組んでいく決意を語りました。

私は会派代表質問で施策のひとつひとつを問うのはやめ、「ジェンダー格差を是正し、ジェンダー平等を根幹に据えた施策で持続可能なまちに」という質問をしました。たとえば工業団地をつくり、企業誘致すれば雇用ができて市人口も収入も増えるともみんな口を揃えて言いますが、そこでの雇用に魅力があるのか。パートや派遣ばかりでは女性がやりがいを持って生涯働き続けられないので流出します。

経済的にも共働き家庭は、所得税住民税を払い、消費もしてくれませんが、減税措置もあって企業の法人税はむしろ減っています。

都道府県	政治		行政		教育		経済	
	指数	順位	指数	順位	指数	順位	指数	順位
静岡県	2022 0.151	22	0.227	22	0.374	29	0.337	45
	2023 0.172	16	0.231	33	0.539	36	0.331	47

都道府県別ジェンダー・ギャップ順位 静岡のギャップは大きい

安定した働き方こそ市のためです。しかし、性別役割分担論で、男性の5倍以上の育児や家事を担いながらでは正職員で働くことがむずかしい。男女で一緒に家事育児が担えるような働き方改革が必要です。

市役所も、非正規職員の正規化、専門職雇用の拡大など雇用の在り方を見直す必要を感じます。

議員は6/20で3割女性ですが、答弁席の女性は2人で1割。答弁側もせめて3割女性にしてほしいです。

今まともな包括的性教育がされないまま、誤ったジェンダー観が子どもにもすり込まれています。学校・地域・家庭の中での人権保障の観点でのジェンダー平等の教育が必要です。

男性国会議員が当たり前に育児を取る時代です。選択的夫婦別姓については国会では賛成が多数派です。男女平等後進国の汚名をいまこそ返上するときです。

※ ※ ※  
このような趣旨で質問しました。



## 何かあっても避難もできない原発を どうして動かしてしまおうのか

宮城県にある女川原発再稼働の報を聞いて一番に思ったことです。女川原発は東日本大震災時、危機一髪のところまで全電源の喪失と津波による直撃をまぬがれました。再稼働に向けていろいろ安全対策を施したけれど、牡鹿半島の先に住んでいる人の実効性がある避難計画はありません。

現在稼働している原発は関西電力の大飯・高浜・美浜、九州電力の玄海・川内、四国電力の伊方、東北電力の女川で13機です。

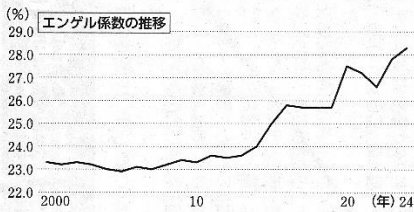
どこも同じようにまともな避難計画はありません。「原発の最大限の利用」という政策は、避難できない人々を置き去りに切り捨てた政策です。

3・4号機の再稼働をめざす浜岡原発を巡っては、2度目のかさ上げで防潮堤を28mにする方針を中部電力が示しました。お金の心配はいりません。私たちが払う電気料金に上乗せさせればいいのですから。

市長は、大井議員の質問に「原発の新規増設は認めない。長期的には脱原発で」と回答しました。老朽化の進む原発のお金を次ぎこんでも、いずれは廃炉がまっています。

又、掛川市民の広域災害時の避難場所が富山県です。自力避難などできるはずありません。原発依存は人権無視の壮大なムダ使いだと思えます。

## どんどん上がるものの値段



今エンゲル係数も上がり続ける…国はまた給付金を言い出していますが、この給付金事業は自治体にとって大きな負担で、余分なシステム改修と委託業務をうんでいます。お金はIT企業と大手派遣に流れていきます。

そんな付け焼き刃でなく、今すぐ消費税下げて、ものの値段を下げてほしい。



庭にメジロ呼ぶい さぎんかの花